



プロフィール
橋下 徹 1969年、東京都生まれ。大阪府立北野高校時代、全国高校ラグビーフットボール大会全国大会(花園)出場。94年、早稲田大学政治経済学部卒業。同年、司法試験合格、97年、弁護士登録。98年、橋下総合法律事務所(大阪市北区)開設。「行列のできる法律相談所」たかじんのそこのまで言って委員会等の人気テレビ番組に出演中。著書に「最後に思わずYESと言わせる最強の交渉術」(日本文芸社)、最新刊「まっとう勝負」(小学館)好評発売中。
 橋下徹オフィシャルウェブサイト (http://www.hashimoto-toru.com)
 タイタンホームページ (http://www.titan-net.co.jp)



発行 / 社団法人 大阪府自動車整備振興会
 〒559-8511 大阪市住之江区南港東3-5-6
 TEL:06-6613-1191
 毎日新聞社総合事業局
 〒530-8251 大阪市北区梅田3-4-5
 TEL:06-6346-8352

”守る”という意味では私と一緒に整備士さんにシンパシーを感じます

ある時はテレビ、ある時は法廷で……。東奔西走の日々を送り続ける橋下徹さん。もろ今では、橋下さんのことを「はしした」と読む人は皆無でしょう。弁護士として活動される一方、マスコミにも多数出演され、2つの顔を巧みに使いこなす橋下さんにお仕事のこと、ご家族のこと、そして、自動車整備の重要性などについてうかがいました。まっすぐな視線で、淡々と受け答えしてくださる姿勢からは、テレビで見られるシンパシーとは違う、不思議な魅力を感じました。一人の橋下さんの顔が垣間見えたようでした。

巻頭インタビュー
 弁護士 橋下徹さん 1

認証工場の仕事百科
 プロならではの安心をプラス 2

かんたんマイカー点検 3
 季節のお手入れ情報
 なくそう！飲酒運転
 4コマ漫画「てんけんくん」

みんなで行こCAR!
 ぐるっと南紀 4

クイズ&プレゼント 4

いろいろ情報 4

弁護士としても、さらに、タレントとしても多忙な日々をお過ごしですが、ご自身のライフスタイルとして率直な思いを聞かせてください。

橋下 弁護士もマスコミの仕事も、仕事という観点で取り組んでいますので混乱はありません。きちっと費用を頂くわけですから、両方とも一生懸命やらせて頂いています。勿論、出向く場所とか、やっていることは全く違いますけど、自分としては弁護士としてやっていきますし、タレント性というのはないと思っています。あくまでも、弁護士としてメディアに出演しているということなんです。ただ、やっていることが裁判とか、依頼者からの法律相談などと違って、自分自身を発信する、自分の意見表明をするということですけど、弁護士としてやっていることには変わりがないので、自分の中で区分けというのはないです。

「タレント弁護士」というふうには、呼ばれることについては抵抗はないですか。

橋下 周囲から言われる分には全く問題ないのですが、タレントさんというのはテレビの中で表現するという点において最大の能力を発揮される方たちです。そういう能力が自分にあるとは思っていませんから、あくまでも自分は弁護士ですね。



ご家族、特に子どもさんとのスキップの時間は、どのように過ごされていますか。

橋下 子どもは母親だけで十分、育つていっていますので、父親としての役割は、生活費を取ってやること、背後の恐れ存在しているということぐらいて、あえて積極的に、今以上に父親として家族サービスといつか、育児などをやっていこうという気はないですね。今のままで仕事があれば仕事をやり、(仕事がない)ならば子どもたちと接していくスタイルでいきたい。仕事を削って子どもと接していこうというつもりはありません。

家に帰った時には子どもが寝ていたり、一週間に全く顔を合わせないこともしょっちゅうあります。

橋下 弁護士といえば大型バイクのイメージは強いのですが、自動車もお好きですか。

橋下 はい、大好きです。仕事の関係で、自分で運転するというのは非常に少なくなっているのですが、それでも好きですね。高校卒業直前に車の免許を取り、もう19年になります。仕事の合間に車を運転することが好きなので、移動手段としての車よりも、運転することが楽しめる車が好きです。今は自宅と事務所の間を運転するのが精いっぱい。

愛車の点検・整備はどのようにされていますか。

橋下 プロの方に全部お任せしています。法定点検とか、行きつけの認証工場からの通知に基づく点検をする程度です。最初のころは、タイヤのアーイメントがおかしかったりとかいろいろありました。そういう場合、ご自身で触ってみたいですね。

橋下 もう、今の車は無理ですね。オートバイならバッテリーが上がった時とか、クワッチの強弱だったりとか、多少調整出来ますけれど、車に関しては全く無理です。大阪の整備工場で働く整備士の皆さんにメッセージをお願いします。

橋下 自動車の運転は車の点検・整備がしっかりされている、という前提がないと楽しめないし、便利に使いこなせない。その安全性を支える、生命・財産を守るという意味では、僕らの仕事と共通していると思います。僕は法的に、一方、整備士の皆さんは



技術的に他人の生命・財産を守るということ、技術と法律では、世界は違うのですが、「守る」という意味では全く一緒ですから、シンパシー(共感)を感じます。同時に、責任の重大さを感じますね。他人の生命・財産をきちんと守っていく職業ですからお互い切磋琢磨しながら、頑張っていきたいと思っています。自動車を楽しく、より便利なものとして、安全に使えるようにしたいですね。

安心の目印。

遠出前の安心チェックや車検は、お近くの黄色い看板の認証工場にお任せください。

大阪府自動車整備振興会会員の認証工場では車検・定期点検・一般整備のほか、
 新車・中古車販売 部品用品取付販売 オイル交換
 板金塗装 自動車保険 などでも取り扱っています。

あなたの街のくるまやさん
 黄色い看板の認証工場
 はここで探せます!!

http://www.js-osaka.or.jp

welcome to oasis
 (社)大阪府自動車整備振興会
 TEL06-6613-1191

う、点検・整備のほどよろしくお願ひします。

飲酒運転の取り締まりについて、弁護士のお立場でアドバイスをお願いします。

橋下 自分も含めて、今まで甘い認識だったと思うのですが、昨今の飲酒運転の事故の多さを見ますと、飲酒運転というのは、覚せい剤の使用と同じくらい危険だといつていいと思います。飲んで運転するというのが、どれだけ重罪なのかということを徹底的に国民に知らしめて、また、国民もそれを認識することによって、心底、嫌悪感を催すくらいまで厳罰化していかないと、いけないのではないのでしょうか。

